

はじめに

世界の核弾頭 データポスター

しおり

「世界の核弾頭データ」ポスターは、1万3千発以上もの核弾頭が存在する私たちの住む世界の現状を、核弾頭の保有国別・種類別に、わかりやすく図示したものです。小学生から大人まで、多くの方に役立つことを願い、核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)と長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)が2013年に製作を始めました。8月の広島・長崎の原爆忌に向けた平和教育に役立てられるように、毎年6月に最新情報に更新して発表しています。

この「しおり」は、ポスターを手にとった皆さんの理解の一助となることを願い、背景情報や専門用語をできるだけ平易に解説しています。とりわけ、学校などの教育現場で活用していただければ幸いです。

ポスターのもととなった詳細なデータは、RECNAのスタッフを含む専門家によって構成される「核弾頭データ追跡チーム」が作成したもので、

ホームページ

https://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/nuclear1/nuclear_list_202006



で公開しています。

さらに詳しい内容を知りたい方はそちらをご覧ください。

2020年6月

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)
長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

お問い合わせ

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

〒852-8521 長崎市文教町1-14

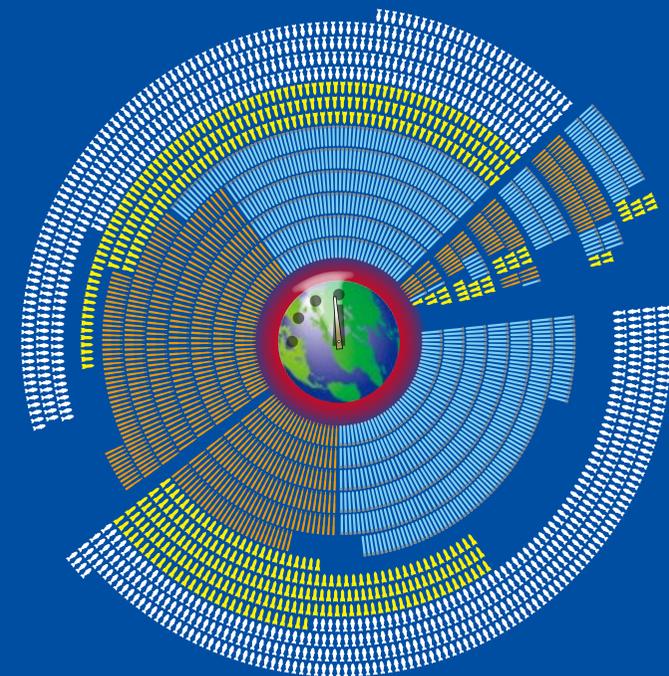
Tel: 095-819-2252 Fax: 095-819-2165

<http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/recna/pcu>

世界の核弾頭 データポスター

しおり

2020.6



13,410

核兵器廃絶
長崎連絡協議会
PCU-Nagasaki Council

RECNA
長崎大学核兵器廃絶研究センター
Nagasaki University
Research Center for Nuclear Weapons Abolition

FAQ

よくある質問



Q1 「核弾頭」と「核兵器」はどう違うの？

核弾頭とは、核兵器の核爆発を起こす部分のことです。一般的には、核弾頭と、それを搭載するミサイルなどを組み合わせたものを核兵器と呼びます。

Q2 「核兵器」と「原子爆弾」はどう違うの？

原子爆弾(原爆)は核兵器の一種です。ウランやプルトニウムの原子核が分裂するときに生じるエネルギーを利用した兵器です。他に、水素の原子核が融合するときに生じるさらに強力なエネルギーを利用した水素爆弾(水爆)があります。

Q3 核兵器とそれ以外の兵器は何が違うの？

核兵器は、通常の爆弾に比べて数万倍から数十万倍の爆発威力と、鉄をも溶かすほどの高温を発生させます。さらに、強力な放射能により多くの犠牲者を生み、長い間にわたって被爆者の心身に痛みや苦しみを与え続けます。そのため、核兵器は「大量破壊兵器」「非人道兵器」と呼ばれています。

Q4 核実験は今でも行われているの？

1945年以降、世界では2千回を超える核爆発実験が行われ、人間と環境に甚大な被害を与えてきました。最近の実験は北朝鮮による2017年9月のものです。あらゆる核爆発実験を禁止する「包括的核実験禁止条約」(CTBT)は、成立から20年以上が経っても未だ発効していません。米国などは、核爆発に至る核分裂連鎖反応を起こさず、CTBTには抵触しない「未臨界核実験」等を行っており、被爆地をはじめ国際的な非難を呼んでいます。

Q5 北朝鮮の核兵器はどうなっているの？

朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の核戦力は引き続き拡大傾向にあります。核計画の詳細は不明ですが、北朝鮮は核兵器の材料となる核物質の生産を継続し、核搭載可能な各種ミサイルの実験も繰り返しています。2018年には史上初の米朝会談が行われるなど外交努力が進みましたが、約束された「朝鮮半島の完全な非核化」実現に向けた動きは停滞しています。

Q6 イランは核兵器を持っていないの？

持っていません。しかし、核兵器の材料取得につながるウラン濃縮活動を秘密裡に進めてきたことなどから、イランの核開発の意図が疑われてきました。この問題を外交的に解決しようと、2015年には主要6カ国がイランと「包括的合意」を結びました。イランが核開発能力の制限、査察・監視などを受け入れる代わりに、経済制裁を包括的に解除するというものです。しかし、2018年に米国が合意から一方的に離脱し、制裁を再開したことでイランも濃縮活動を再開させ、両国の関係は悪化しました。

Q7 核兵器禁止条約で核兵器はなくなるの？

2017年に採択された核兵器禁止条約は、核兵器の開発、実験、保有、使用や使用の威嚇などを禁止した条約です。もちろん条約ができて核兵器廃絶のゴールがすぐに達成されるわけではありません。核保有国や「核の傘」の下の国々は少なくとも当面は条約に参加しないと見られています。しかし、核兵器を明確に国際法違反の非人道兵器と位置付けた条約が制定されることによって核兵器に「悪の烙印」が押されます。それが世論に影響を与え、核抑止政策をとる国々に政策転換を迫る圧力になることが期待されています。

Q8 核兵器をなくすというのはどういうこと？

まず核兵器の部品を解体して処分しますが、問題は核物質です。核物質は簡単にはなくなりません。したがって、核物質は、二度と核兵器に使用できないように管理・処分することが必要です。残念ながら、世界の核物質量は現在も増え続けています。

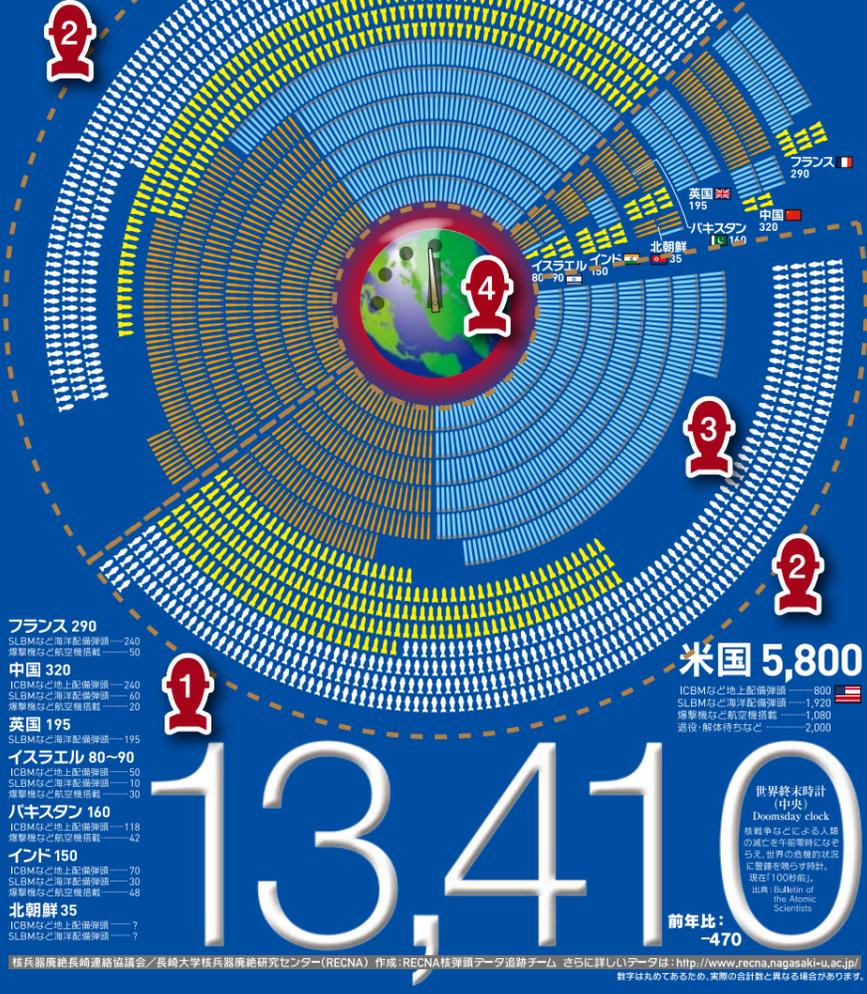
Q9 日本ができることは？

核兵器のない世界を実現するためには、核保有国だけでなく、すべての国の力が必要です。核不拡散条約(NPT)は、その第6条で、すべての国に核軍縮の実現に向けた努力を義務付けています。とりわけ、日本など、核保有国の「核の傘」に依存している国が政策を転換し、「核兵器に頼らない安全保障」をめざしていくことが重要となります。北東アジア非核兵器地帯の創設に向かうことはそうした努力の一つです。

存在する限りは使われる 世界の核弾頭データ 2020.6

ロシア 6,370

ICBMなど地上配備弾頭 1,600
SLBMなど海洋配備弾頭 1,620
爆撃機など航空機搭載 1,080
退役・解体待ちなど 2,060



世界の核弾頭の総数は推定13,410発

2020年6月現在、地球上に存在する核弾頭の総数は推定13,410発です。核兵器に関する情報は一般的に国家の軍事機密であり、いずれの国も詳細なデータを公表していません。したがって、この問題に取り組む研究者や専門家は、さまざまな角度からの情報を基に、各国の保有核兵器の数や種類、配備状態を推察しています。本ポスターも、そうしたさまざまな情報源からのデータを精査して作られたものです。

13,410という数字に皆さんはどのような印象を受けるでしょうか。冷戦のピーク時(1987年)には、世界に7万発近い核弾頭が存在しました。それに比べると核弾頭数は大幅に減ってはきています。しかし、2000年代以降、その削減のスピードはけっして速くありません。

昨年(2019年6月)の核弾頭数は13,880発でした。つまり、数字上では、一年のあいだに470発が減ったこととなります。しかし、単純に喜べる状況ではありません。米口は、総数は減らしているものの、莫大な予算を投じて保有核兵器の近代化を着々と進め、さらにはももとの近代化計画になかった新型核・ミサイルの開発・配備にも邁進しています。中国は核不拡散条約(NPT)上の5核兵器国の中で唯一、核弾頭数が増加傾向にあります。インド、パキスタンの両国も核軍拡を進めており、不安定な情勢からも核使用の危険性が高いと見られています。北朝鮮核問題も解決の兆しが見えないままです。

米口が90%以上を保有

核弾頭を保有しているのは、米国、ロシア、フランス、英国、中国、インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮の9カ国です。

うち、米国から中国までの5カ国は、核不拡散条約(NPT)上で「核兵器国」と定義されています。NPT交渉時にすでに核実験を終えていたからです。インド、パキスタン、イスラエルの3カ国はNPTの枠外で核保有をしています。北朝鮮は2003年にNPT脱退を宣言しました。

米国とロシアの保有数はほぼ等しく、2国で約91%を保有しています。両国の保有する多くの核ミサイルは数分で発射可能な「高い警戒態勢」に置かれており、偶発的な事故等で核兵器が使用される危険が指摘されています。

米口は、2011年2月に発効した新STARTという条約において、それぞれが保有する**作戦配備の戦略核弾頭数**を1,550以下に削減することを約束し、2018年2月の期限までに目標をクリアしました。しかし実質的には米国で数百発の削減に過ぎず、ロシアにいたっては条約発効時点ですでに目標を達成しているなど、保有核弾頭の大規模削減には程遠いものです。

米トランプ政権は、ロシアや中国の脅威を理由に核抑止強化の必要性を公然と掲げ、核兵器の近代化を進めるとともに、より使いやすい新型核の開発・配備にも力を入れています。あわせて、イラン核合意や中距離核戦力(INF)全廃条約など重要な軍備管理合意からも次々と離脱しました。こうした動きに呼応してロシアも核戦力増強に向かっており、中国も反発を強めています。新START条約の延長や後継条約に向けた米口協議もまだ不透明な状況です。二国間・多国間の軍備管理体制は大きな危機に直面しています。

ドイツやイタリアにも核爆弾

米国の保有する非戦略核弾頭(約150発)が、北大西洋条約機構(NATO)軍用として、ヨーロッパ5カ国(ベルギー、ドイツ、イタリア、オランダ、トルコ)に現在でも配備されています。まさに冷戦の遺物であり、撤去を望む声はヨーロッパ内外で高まっていますが、まだ実現されていません。

人類滅亡のときまであと「100秒」?

ポスターの中央の地球には「終末時計」が描かれています。これは、米国の権威ある専門誌「原子科学者年報」が1947年から継続的に発表しているもので、核兵器使用などによる人類滅亡を午前0時になぞらえ、それまでの残り時間で世界の危機的状況を象徴的に示す試みです。

2020年1月、時計の針は残り「100秒」となりました。これまで、世界が最も終末に近づいたのは1953年、ソ連が水爆実験に成功したときの「2分前」でした。核使用リスクの増大、核保有国による核近代化の動きなどを背景に、私たち人類は極めて大きな危機に直面していると専門家らは警鐘を鳴らしています。

核弾頭の運搬手段とその種類

ポスターは、使用される発射台や運搬手段の種類によって、核弾頭を以下の3つに分類して表示しています。それぞれのアイコンは弾頭5つ分です。

- ことば1** 潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)など海洋配備用の核弾頭
 - ことば2** 大陸間弾道ミサイル(ICBM)など地上配備用の核弾頭
 - ことば3** 爆撃機など航空機搭載用の核弾頭
- には、「作戦配備の戦略核弾頭」「作戦配備の非戦略核弾頭」「作戦外貯蔵」の核弾頭が含まれます。

ポスターでは、上記に加えて、「退役・解体待ちなど」の分類を設けています。これは、軍用任務から退役し、解体を前提に保管されている核弾頭ですが、再利用を完全に否定することはできません。

ことば1 「潜水艦発射弾道ミサイル(SLBM)」

潜水艦に装備された発射管から発射される弾道(おおむね放物線を描く)ミサイルのこと。

ことば2 「大陸間弾道ミサイル(ICBM)」

地上から発射される射程距離5,500キロメートル以上の弾道ミサイルのこと。

ことば3 「作戦外貯蔵の核弾頭」

作戦配備はされていないが、将来の使用の可能性を想定して貯蔵している弾頭。

ことば4 「作戦配備の核弾頭」

部隊に配備・貯蔵され、そのまま使用できる状態に置かれている核弾頭のこと。

ことば5 「戦略核」

戦略上重要となる敵国の都市や主要軍事施設などに対する攻撃を目的とした兵器に搭載される核兵器。他方、より限定した地域的戦争の目的に使われるものを「非戦略核」という。「非戦略核」には「戦術核」「戦域核」と呼ばれるものがある。